

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-3	交通・物流・交流・防災拠点としての道の駅の性能照査と多目的最適配置に関する研究	長岡技術科学大学 教授 佐野 可寸志	A
<p><研究の概要></p> <p>道の駅を交通、物流、地域交流および防災拠点として活用するための機能を論じ、広域ネットワークでの拠点間の近接性等を踏まえて、拠点毎に各機能の有効性を指標化する手法と多目的最適配置計画手法を確立する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>道の駅の拠点としての多岐に亘るアンケート調査等のデータ収集と、それらに基づく性能照査手法、道の駅の最適配置計画手法の構築等の総合的な取り組みが着実に進められている。理論面だけでなく、実務的な意義も大きな成果が期待できることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅や地域交通について様々な調査を行っているが、次年度は最終年でもあり、テーマと関係の深いものに重点を置くなど取りまとめを意識して研究を進めていただきたい。 ・道の駅の経営や運用には地方自治体や地元組織が熱心に取り組んでおり、その方達に届くような表現での取りまとめを期待したい。 ・広域的な災害拠点となるためには、行政界を超えて当該ならびに周辺自治体の受援と応援が可能となるような整理についても検討いただきたい。 ・AHP や CVM の支払い意思額により道の駅の利便性評価をしていますが、コロナウイルスの影響についても考察を期待したい。 ・配置問題とあわせて、道の駅の建設コストや維持管理コストを考慮した、最適な総量に関する検討も期待したい。一部の分析結果について、さらなるモデルの精緻化が必要であると思われます。 ・テーマ4で、災害時のシナリオとして2番目に近い施設に避難することを想定しているが、想定する災害規模の違いによる影響についての検討も期待したい。 ・AHPやCVMなどで道の駅を評価するに当たっては、回答する個人がどの道の駅を想定するかによる評価の違いについての検討も期待したい。 ・外注の割合が大きいため予算計画を再考して効率的・効果的な研究遂行・費用削減に努めていただきたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第42回新道路技術会議において審議したものである。